

グロース株ポートフォリオ分析

基準日: 2026年10月
作成: A. I. P 株式会社

セクターローテーション分析で選好する「情報技術・資本財（AIインフラ・FA）」から厳選する成長株戦略（円安戻りが装置株の追い風に）

1 前提となるマクロ環境分析（2026年10月現在）

① セクターローテーション分析との整合

今月のセクターローテーション分析で「強気」とした情報技術・金融・エネルギー・資本財のうち、高成長率・高PER許容・イノベーション性というグロース株的特性に合致する情報技術と資本財（AIデータセンター向け電線・FA/自動化）の2セクターから銘柄を厳選する。金融・エネルギーはバリュー株ポートフォリオで扱い、原油高と利上げの逆風を受ける一般消費財は引き続き対象外とした。

② AI半導体需要は短観にも表れる強さ、9月中旬に装置株が急反発

10月1日公表の日銀短観では大企業製造業DIが+24と6期連続で改善し、AI半導体需要の強さが改善をけん引した。9月18日にはエヌビディアなど米半導体株高を受けてアドバンテストが5%超、東京エレクトロンが4%超上昇するなど、AI・半導体関連が日経平均（9月末66,753円）の上昇の中心にある。

③ AIインフラの裾野拡大：データセンター向け電線と省力化投資

AIデータセンター向けの光ファイバー・電線需要でフジクラなど電線株が日経平均の上昇を支える主力となり、9月30日も非鉄・電線関連が業種別上位となった。人手不足を背景とした国内の省力化・FA投資も根強く、AI設備投資の恩恵は半導体以外の資本財にも波及している。

④ 金利・為替：円安戻りは装置株の追い風、日米利上げによる割引率上昇との綱引き

ドル円は9月上旬の155円台から9月末に156.9円前後へ円安方向に戻り、海外売上比率の高い半導体製造装置・FA銘柄にとって円換算収益の改善要因となった。一方、FRBは9月に3.75～4.00%へ利上げし年内もう1回を示唆、日銀も1.25%へ利上げし10年国債利回りは3%台と、日米で割引率が上昇しており高PER銘柄のバリュエーションには逆風。原油高によるインフレ再加速で利上げが続くリスクもあるため、業績の上方修正が伴う銘柄に絞る。

2 最適な構成比率と主要投資指標

■ ポートフォリオ目標配分

情報技術
(55%)

資本財(AIインフラ・FA)
(45%)

※セクターローテーション分析でオーバーウェイトと判定したセクターのうち、特に成長性の高いテーマ（AI半導体・AIデータセンター向けインフラ・自動化）に絞り込んで配分します。

■ ポートフォリオ予想総合指標（加重平均）

約 27%

平均売上成長率(前年比)

約 33倍

平均PER

約 25%

平均EPS成長率

6銘柄

組入銘柄数

2セクター

対象セクター数

10～15%

期待トータルリターン

3 採用銘柄・ETFの詳細分析

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
情報技術 東京エレクトロン	売上成長率: 約20% PER: 約28倍	9月18日に米半導体株高を受けて4%超上昇し53,000円台へ。先端ロジック・メモリ向け装	半導体製造装置の世界大手として、AI投資サイクルの中核的な受益者。

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
(8035)		置需要は底堅く、円安戻りも採算改善要因。	
情報技術 アドバンテスト (6857)	売上成長率: 約35% PER: 約36倍	AI半導体向けテスト需要の急拡大が続き、9月18日には5%超上昇して3万円台を回復。業績予想の上方修正基調が継続。	AIチップの検査工程で高いシェアを持ち、AI投資サイクルの中でも特に高い成長率を誇る銘柄。
情報技術 レーザーテック (6920)	売上成長率: 約25% PER: 約34倍	EUV関連の検査装置需要が最先端プロセス投資の拡大とともに増加基調。	EUVフォトリソマスク検査装置でほぼ独占的地位を持ち、微細化投資が続く限り高成長が期待できる。
資本財(AIインフラ・FA) フジクラ (5803)	売上成長率: 約30% PER: 約30倍	AIデータセンター向け光ファイバー・光配線部材の需要拡大で、日経平均の上昇を支える主力銘柄の一角。9月30日も上昇。	AIデータセンター投資の拡大を、半導体とは異なる「つなぐ」インフラ側から取り込める高成長株。今月新たに組み入れ。
資本財(AIインフラ・FA) ファナック (6954)	売上成長率: 約18% PER: 約27倍	AI・自動化投資と国内の省力化投資の拡大を受け、FA関連の受注が回復基調。円安戻りも追い風。	産業用ロボット・CNC装置の世界大手として、AI設備投資の裾野拡大を享受しやすい銘柄。
資本財(AIインフラ・FA) キーエンス (6861)	売上成長率: 約12% PER: 約38倍	高収益なFAセンサー事業が、設備投資需要の拡大とともに成長を続ける。	圧倒的な営業利益率を誇る優良グロース銘柄で、景気後退局面でも高い収益性を維持してきた実績がある。

4 資金投下・時間分散戦略（2段階投資の執行）

【第1弾】現在（2026年10月）：資金の50%を即時投入

AI半導体需要の強さが短観でも確認され、円安戻りも追い風となる中、まずは予算の半分を上記の配分比率（55:45）で買い付け、中長期の成長ストーリーへの投資を開始します。

【第2弾】日銀10月会合後～11月：残りの50%を投下

日米の追加利上げ観測や原油高によるインフレ懸念、11月米中間選挙前後のボラティリティ上昇でグロース株が調整する場面があれば、残りの50%資金で押し目買いを執行し取得単価を最適化します。

5 出口戦略（売り時・利益確定の目安）

■ キャピタル利益確定とリバランスの最適タイミング

① 情報技術：AI投資サイクルのピークアウト兆候が出た局面

半導体設備投資の伸び率鈍化や在庫調整の兆候が明確化した場合、段階的に利益確定を検討します。

② 資本財（AIインフラ・FA）：長期保有（維持）またはリバランス

AIデータセンター投資と自動化は複数年の構造的テーマであるため基本は保有継続とし、四半期決算での受注動向と、介入などによる急激な円高への巻き戻しリスクに注意しながら追隨します。

